

SHUKKU
CONNECTED

#03

後編



UNIV. OF
TSUKUBA FC



ミスター・コンサドーレ

24期

曾田
雄志



筑波大学蹴球部は高等師範学校を起源とし、1896年から数えて129年の伝統を誇ります。「ゴールポストを全国に」を合言葉に多くのOBが教員となりサッカーを普及してきた歴史があります。蹴球部OBには田嶋幸三さん、井原正巳さん、最近では三笛薫選手などがいらっしゃり日本サッカー界を引っ張ってきました。サッカー業界以外にも他業界で活躍しているOBが多くいらっしゃいます。

SHUKYU CONECTEDはそんな様々なOBにインタビューを行い記事にすることで、現役部員がOBを、OBが他のOBを知る機会を増やし交流を促進させることが目的です。この記事を作成するにあたり多くのOBの活躍を知りました。それを少しでも知っているだけだと幸いです。

第3回は北海道コンサドーレ札幌で9年間活躍され、引退後もアスリート支援をはじめとした様々な事業でご活躍されている曾田雄志さんです。曾田さんの唯一無二のキャリアや熱い思いを2回に分けてお届けします。

後編はプロサッカー選手引退後のキャリアや蹴球部に対する想いにフォーカスしていきます。

引退後について教えてください

サッカー選手を引退し、コーチや監督などになるつもりもなく、ましてやサッカー界にとどまるつもりは全くないところからスタートしました。サッカーをやつたからもういいやと思つても、結局趣味を仕事にするのは難しいと感じ、一周回つてスポーツに自分が関わるとしたら、マネジメントなのではとなりました。Jリーグのみならず、プロアスリート界の中でも最も偏差値が高い部類だと自覚していたので、小野伸一さんや中村俊輔さんには監督コーチとしてはかなわない可能性があるけど、マネジメントならば勝てるのではないかと思いました。そこで1から勉強し直そうとし、当時行きたいと思っていた海外で学べるところを探しました。調べた結果、マンチエスター大学は当時世界大学ランギングが30位くらいで、MBAがマンチエスター・ナイツドと提携しており、そこに1年行つてから、ハーバード大学のケネディスクールという公共政策大学院に1年行けば、そんな元アスリートはないので、実現できればマンチエスター・ナイツドのGMに日本人が初めて就任みたいな可能性が出てくると思って、サッカー選手を引退すると決めた頃から勉強し始めました。2年半かなり頑張つて勉強し、マンチエスター大学のMBAコースに実際に入れることになり、さらにはこの取り組みが素晴らしいからお金出すといつてパトロンの方もついてくれました。家族も移住する予定で、学費、生活費、子どもの教育費、養育費を負担してくれるという状態でした。しかし、東日本大震災ではなく、原発事故も絡み、過去の日本で最も大きいアクシデントの一つではないかと思え、結局謝つて留学をすべてキャンセルし、ボランティア団体を作り、震災の支援をし始めました。海外に出ていれば世界的なエリートになっていた可能性もあり、ここからまた人生が急に変わりました。サポートーとファンがいるのでたくさんの人アスリートを見込み、たくさんの人之力を借りて東北の応援をしましたが、悲しい現場を見過ぎたし、悲しい話も聞き過ぎて、自分の無力さを感じました。

引退後について教えてください

困っている人を助けるということがこれほど大変だということを実感して、ピュアな気持ちで活動していましたが、活動しすぎて仕事もほとんど辞めてしまいました。その結果自分が貯金ゼロになり、人を助けようとしていたのに自分が困ってしまう状況になりました。そのときには2013年になつており、子どもも小学生になつていたのでこのままだつたら終わりかなと感じ、感覚で自分がよいと思つたことをやついてもそんなに甘くないことを痛感していました。

そんなときに知らない電話番号から電話があり、それがある大企業の社長室からのものでした、「曾田さんは素晴らしいことをしているから何か応援させてください。」と言われ、詐欺かと思いましたが、本当に東京でお会いしました。お金はもちろんいただいていないですが、例えば文科省の偉い人、アスリート界の重鎮や大企業の幹部などいろいろな人を紹介してもらいました。そこで急激にネットワークが増え、頼まれごとが増え怒濤の日々が毎日毎日続きました。そのあたりからビジネスとは何かを改めて考え始め、社会の課題を解決することと、それを事業化することにはどういう手法があつて、どういうやり方があるかを考え始めました。

ただ、人脈やネットワークは大事だと言いますが、自分の力がなければ使うことが出来ません。自分の力がないからネットワークを使い切れないところ度自分で感じたので、この頃はただ泥臭く活動していました。

そのあたりで初めて自分で一般社団法人を設立し、アスリートのキャリア支援と公教育の支援というところで、2013年から何百回もアスリートを学校の体育の授業や部活に派遣するという事業を始めました。

そういったアクションをとにかくお金がないながらもやりまくつていたら、教育とかスポーツというキーワードで僕の存在が浮かぶ人が増え、まずは北海道内で仕事を頼まれることが増えました。サッカーに関しても曾田スクールといつて10年ほどやつたりもしました。

引退後について教えてください

サッカー選手という武器を失ってしまったので、とにかくいろいろなことにチャレンジをして、もう一回修行して自分の武器を作り直さないといけないと思つていました。そのため、依頼はすべて断らないで何でもやりました。その中で自分が成長していけば良いと思つていて、その流れで北海道教育大学からもスポーツビジネスの研究室を持たせてもらい、6年間やりましたし、なでしこリーグ当時3部のチームがあつて、経営破綻しそうなので助けてほしいという依頼からそのチームの代表を務めたり、大きい企業からプロジェクトの依頼など、頼まれることが増えて、出来ることも増えました。しかし、まだまだ安定感もなく、つぎはぎみたいにたくさんの仕事をやっていましたが、ずっと自分なりに人とか仕事に向き合つて取り組みました。そして、出来ることが本当に増えて、近年で言うと時代の変わり目もあり、大企業さんとの仕事も増えました。

現在は札幌から移住して十勝の浦幌町という人口約4000人の街に住んでいて、まちづくりと町長の特別補佐みたいな自治体側の役職も貰っています。札幌ではアスリートの派遣やイベント、頼まれごとをやるという感じで、東京では大企業の人材育成や幹部育成、新規事業プロジェクトの立ち上げなどをやっています。

こんな未来になるとは全く思つていませんでしたし、今後もいろいろ変化があると思います。日本人は一つのことをやり遂げる美学みたいなものももつていて、いろんなことをやつた方が良いとは言いつつ、例えばスポーツ一つとっても様々な種目をやつていると、「何か身になつたのか」となると思います。いろいろなことをやることは中途半端になるイメージがあり、ポジティブな目線があまりなくて、「最終的に何をやりたいんですか?」とか、「何になりたいんですか?」とずっと言われ続けました。なので自分からアピールしないし、露出しないようにしていました。

引退後について教えてください

しかし、幅広くて深くなり立体のようになつていくことで、スーパージェネラリストは最強であると気づきました。僕は一応ジャンルとしては教育人材育成、人材開発みたいなことがベースですが、ほとんどの事業に関わることが出来るようなスキルを得ました。事業を正しい状態にするとか、新しい事業を立ち上げる、人のキャリアを支援するとか何でも良いのですが、課題がわかつて未来像がわかると、その間をどうやつたら埋めることができるとか、新しく事業を立ち上げることが出来るか、というスキルを身につけることが出来ました。だから企画から人をアレンジすること、資料作り、運営から何から全部自分で出来るし、今はおかげさまで人に恵まれているので、各ジャンルのトッププランナーの人たちと大体つながるし、大企業の幹部の方にお世話になつていています。たまたまかも知れないけど、いろいろやつたからこそ得られることがあります。あるんだというのはすごく実感しています。今の日本はいろいろなことが起きていて何が起こるかわからない状況下で、「このままで日本は大丈夫なのか。」とか「真実は何だろう。」とかにクエスチョンを持つようになつています。だから本当に多様な価値観が大事だし、一次情報といつて現場に行つて直接人の話とかを聞いたりするという感覚が大事だと思つています。自分はそのようなことをずっとやつてきたので、時代と合つてきました。経済性の向上と世にとつてよいことの両方を求められる時代で、自分は社会課題解決の事業家なので、これからチャンスは増えていくと思っています。

僕にサラリーマン的な思考はほほないんで、やっぱり自分でチャレンジすべきだと思うし、その分責任もどらないといけないけど、チャレンジしている分楽しいことに出会える可能性が広がっていると感じています。自分でもキャリアは珍しいと思っていて、元アスリートでこういう事業をやっている人はほとんどいないと思つています。

引退後について教えてください



塾長をしている幹部企業人研修の曾田さん 北海道十勝郡浦幌町

人の人生や人の仕事は計画的にならんとするけれど、自分の人生は放置していく、野心も目標もなく、何になりたいかと言わると困ります。ただ、昨日よりは豊かになりたいし、先週よりもパワーアップしていたいというのは欲張りなので、よくわからぬけど強くなったり豊かになつたら出来ることも増えるだろうし新しい可能性に出会えるので、あまり未来のことを考えすぎなくて良いと思っています。本当に自由で良いと思っていて、その分大変なこともあるけれど、こういうキャリアが元アスリートでもあるというのだけでも違うと思っています。

現在の蹴球部との関わりを教えてください



OB会の副理事長を去年からやつていて、たいした活動はしていませんがお手伝いをしています。早慶と比べると、筑波の人は控えめな人が多いような印象があります。だけど、筑波はやっぱり伝統もあるし、本当にサッカーが好きだという方が多いです。田嶋さんも日本サッカーリーグ協会の会長をされていたし、三笠君のようにトッププレイヤーもいるので、もう少し盛り上がるようにお手伝いをしたいと考えています。昨年田島さんのパーテイーをプロデュースさせてもらいましたが、そのときのようには多世代が交わるような機会はすごく大事だと思うので、中筑や、こういったインタビューも含めて良い形を作るお手伝いをしたいです。元プロであつた人がこういったイベントに関わることが少ないけど、自分は周りの選手に出てくださいと声もかけることが出来るので良い機会を楽しみながら作りたいです。

最後に、現役部員にメッセージをお願いします



大学は社会に出る最後のモラトリアムというか、準備期間であると思います。社会に出ると、自分らしさを維持しながら進むというすごく難しいことも初期は多いので、今親にお世話になりながらとかいろいろな形かもしけないけど、自分らしさを追求できる大事な時間でもあると思います。あまり短期的な成功失敗にとらわれずに自分らしいチャレンジをすると、ふと何かその経験がどこかのタイミングで巡ってきてくれて役に立つような、大事な財産になると思うので、自分らしく言い時間を過ごしてほしいと思います。